

小浜白鬚区防災マップ

計画規模

浸水深表示

- 0～0.5m 未満
- 0.5～1.0m 未満
- 1.0～3.0m 未満
- 3.0～5.0m 未満

原則、市の開設する指定
緊急避難場所（小浜コ
ミュニティセンター）へ
避難しましょう。

市指定緊急避難場所
小浜コミュニティ
センター



小浜
コミュニティセンター

立退き避難が必要となる家屋等の表示（マーク）

- 計画規模の降雨で立退き避難が必要となる家屋
- 最大規模の降雨で立退き避難が必要となる家屋

計画規模の降雨とは、概ね 30 年から 100 年に 1 度程度の確率で発生する降雨により河川が氾濫した場合、浸水域および浸水深を表しています。最大規模の降雨とは、概ね 1000 年に 1 度程度の降雨を想定しています。白鬚区は、最大規模の降水の場合、区の半分近くが 1m 以上 3m 未満の浸水が想定されています。



〔指定緊急避難場所〕は、災害の危険から**命を守るために緊急的に避難**する場所です。
〔指定避難所〕は、災害が発生した場合に避難者が**一定期間生活**するための施設です。

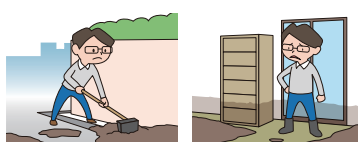
大雨によって発生する災害・被害

道路の冠水



エンジンが停止したり、ドアが開かないなど、車内から出られないことがあります。

床下・床上浸水



流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や汚泥が堆積するため、片付けが大変です。

家屋の倒壊



河川沿いでは、家屋が倒壊し、命の危険性もあります。

避難に緊急を要する場合
に避難する場所です。

浸水による影響

浸水継続時間が長い区域

※浸水継続時間とは、浸水深が50cmになってから50cmを下回るまでにかかる時間を示したものです。
浸水継続時間が長い区域において、立退き避難を行わなかった場合、次のようなさまざまな問題が発生し、生活が困難となるおそれがあります。そういった状況に陥っても対処できるように、十分な備えをしておきましょう。

＜浸水継続時間が長期化した場合＞

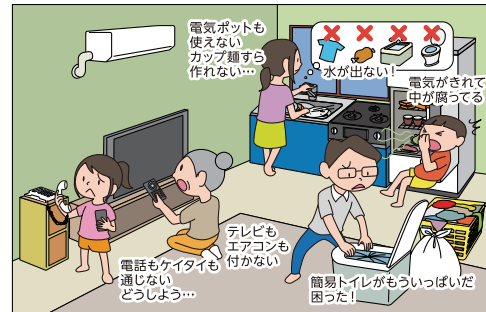
- 浸水深が深い場合には、家から外へ出られない
- 備蓄していても水や食料などがなくなる
- 衛生環境が悪化する
- 病人が出た場合に対応が難しい
- 定期的な診療を受けている人は診療を受けられない

＜孤立した場合＞

- 体調を崩した場合の対応が難しい
- 情報を受けられない場合、不安になる

＜電気、ガス、水道が止まった場合＞

- 停電などにより情報を得ることができなくなる
- 図に示すように生活環境が悪化する



大雨時にとるべき行動

情報の種類と行動の目安

小浜市では住民の皆様の避難が必要と判断した場合、その緊急度に合わせて避難情報を発令します。市から発表される情報に注意してください。
災害時に支援の必要な方が近くにおられる場合は、お互いに助け合って避難しましょう。

避難情報など		防災気象情報
警戒レベル	避難行動など	避難情報など
警戒レベル 5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保 災害が実際に発生していることを把握した場合には、可能な範囲で発令。 小浜市が発令
警戒レベル 4	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示 地域の状況に応じて緊急的又は重なる避難を促す場合などに発令。 小浜市が発令
警戒レベル 3	避難に時間を要する人（高齢の方、障がいのある方、乳幼児など）とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 小浜市が発令
警戒レベル 2	避難に備え、ハザードマップなどにより、自らの避難行動を確認しましょう。	洪水注意報 大雨注意報など 気象庁が発令

警戒レベル相当情報（例）

（国土交通省、気象庁、都道府県が発令）

警戒レベル5 相当情報
氾濫発生情報
大雨特別警報 など

警戒レベル4 相当情報
氾濫危険情報
土砂災害警戒情報 など

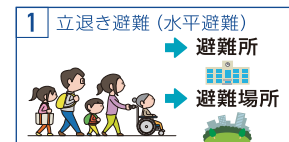
警戒レベル3 相当情報
氾濫警戒情報
洪水警報 など

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

適切な避難行動

避難の種類と行動

避難行動には、①避難所や、近隣の安全な場所（近隣のより安全な場所・建物など）への「立退き避難」、②「立退き避難」をすとかえって危険な場合は、その時点で居る建物内でより安全な部屋などへ移動する「屋内安全確保」、③2階以上の高いところへ避難する「垂直避難」があります。



避難時の心得



火の元（コンロ、暖房器具、タバコ、線香など）と戸締りを確認、電気はブレーカーを落として、親戚や知人などに避難することを連絡しておきましょう。



動きやすい服装で、必要最小限の荷物を持ち、2人以上で避難しましょう。



深さ30cmを超えると自動車は走行困難になります。

地域での助け合い



肢体不自由な人には…

- 階段では2人以上が必要で、のぼりは前向き、くだりは後ろ向きにして移動しましょう。



耳が不自由な人には…

- くちをはっきりと開け、相手に分かりやすいように話しましょう。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝えましょう。



目が不自由な人には…

- 災害時には、声を掛け情報を伝えましょう。
- 誘導する場合は、支援者のひじ辺りを軽く持つてもらい、半歩前をゆっくり歩きましょう。



外国人には…

- 身振りや手振りで話し掛け、孤立しないようにしましょう。